

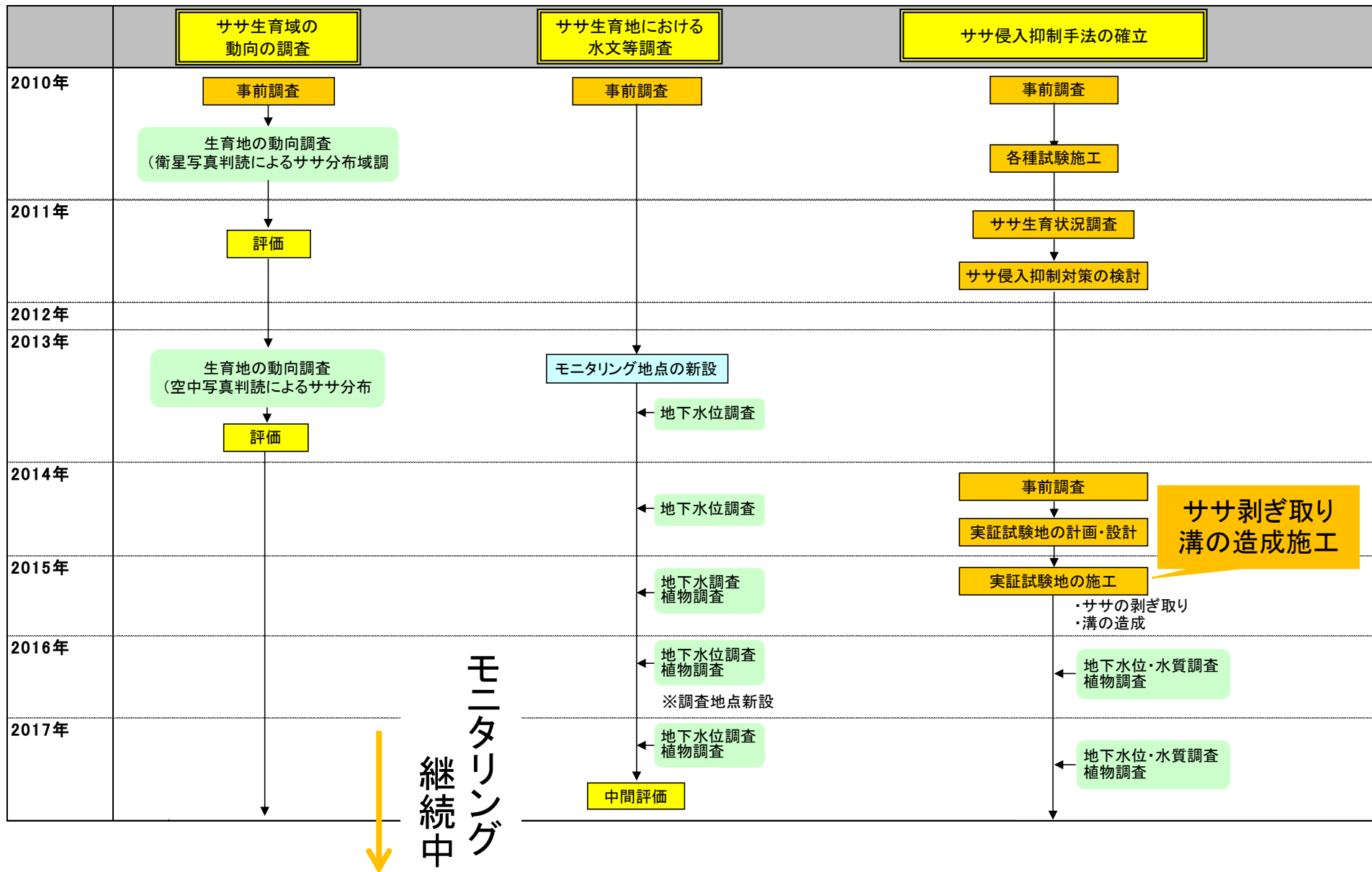


## 丸山周辺のササ対策について

# 丸山周辺ササ対策における事業進捗



# 丸山周辺ササ対策における事業進捗



# ササ侵入抑制対策試験の考え方

## 1. 小面積のササ群落(パッチ状のササ) → 剥ぎ取りによる対策

---

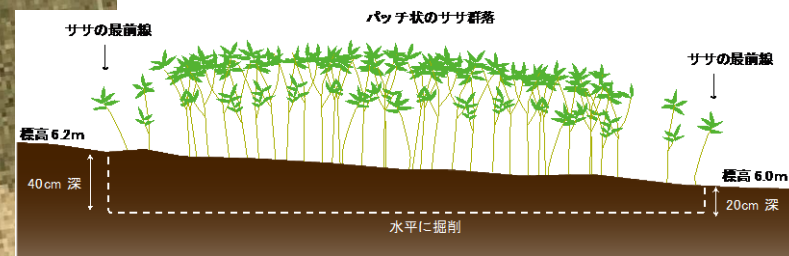
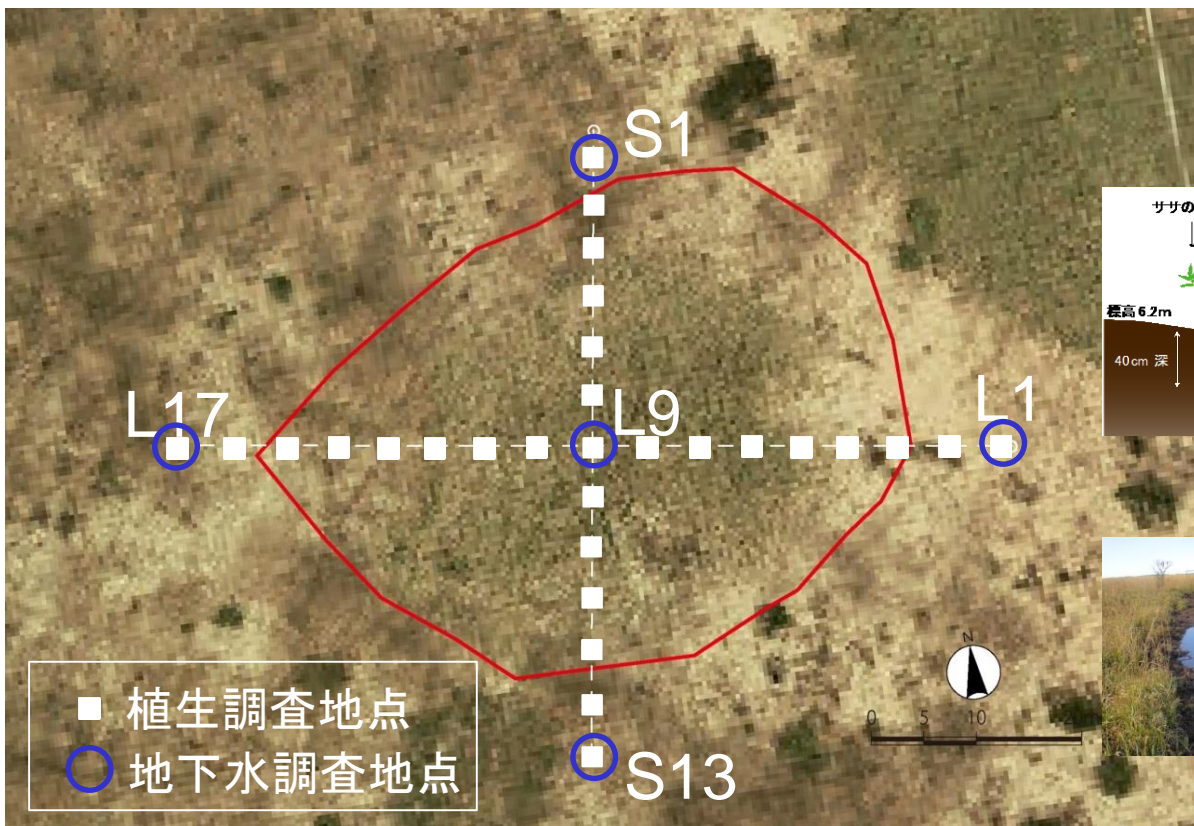
- ①密生したササによって被圧され、他の植物がほとんど生育していないササ群落を対象に実施。
- ②大面積に分布するササ群落全域に適用するのは現実的ではないため、近年の拡大が著しいパッチ状のササ群落を対象に実施。

## 2. 大面積のササ群落 → 外周への溝の造成による拡大抑制対策

---

- ①ササの生育地拡大を抑制する対策としてササ群落の外周部における「溝の造成」を試験的に実施。
- ②ササは密に生育している箇所から地下茎を伸ばして生育地を拡大するため、まとまりのあるササ群落から周辺の湿原への新たな拡大を抑制することも湿原の保全上、重要な対策となる。

# ササ剥ぎ取り範囲とモニタリング位置



ササ剥ぎ取り後の状況  
2016年9月

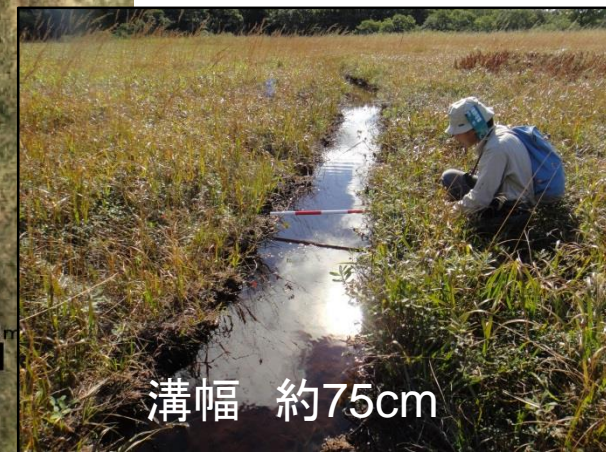
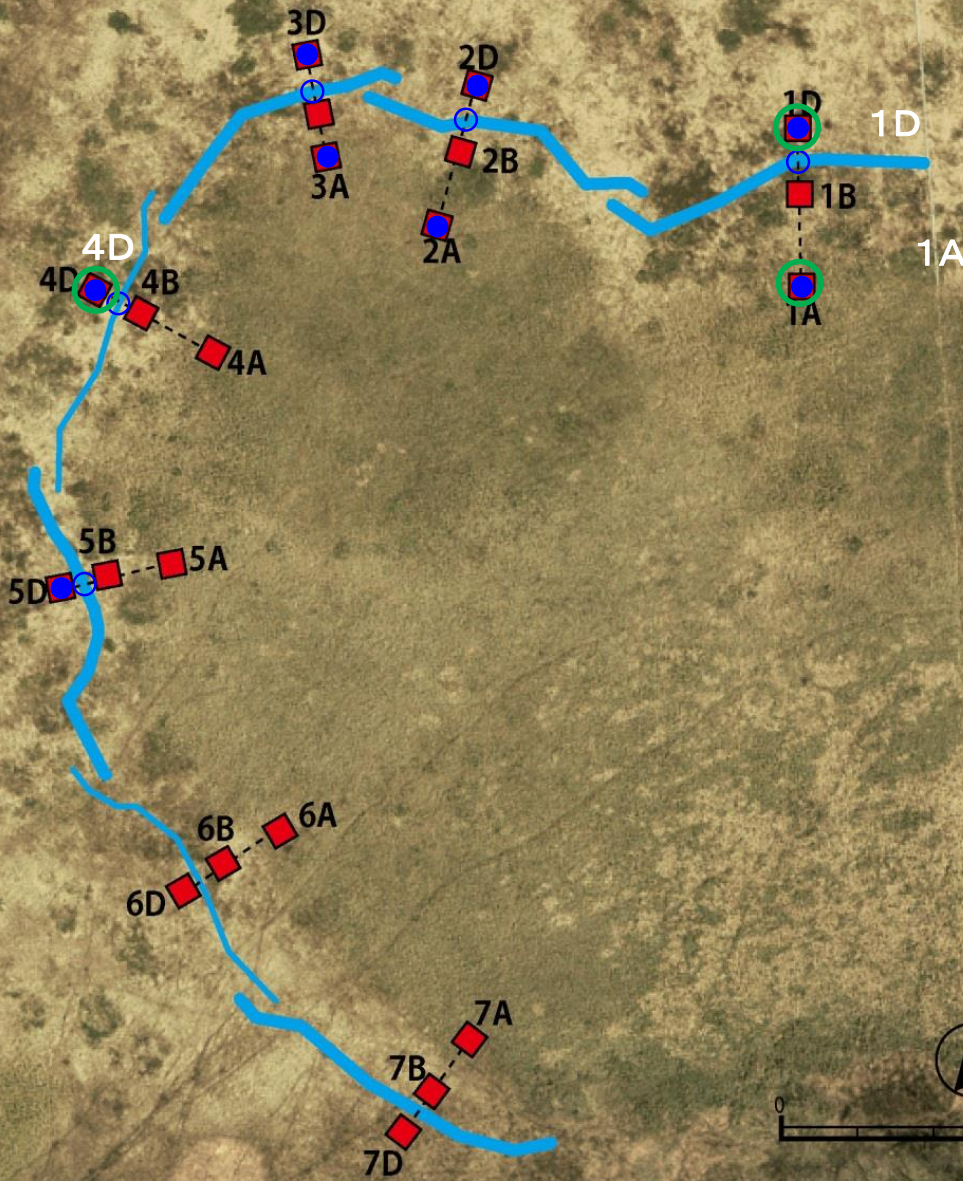


顕著な変化は  
みられていない

2017年8月

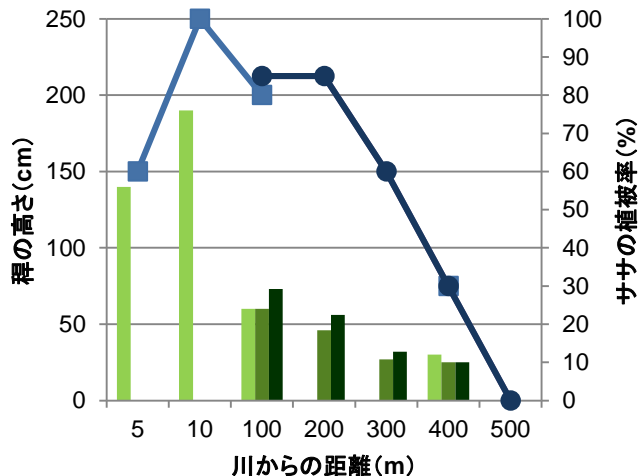
# 溝の造成とモニタリング位置

- : 地下水位調査
- : 開水面水位調査
- : 植生調査地点
- : 水質調査地点

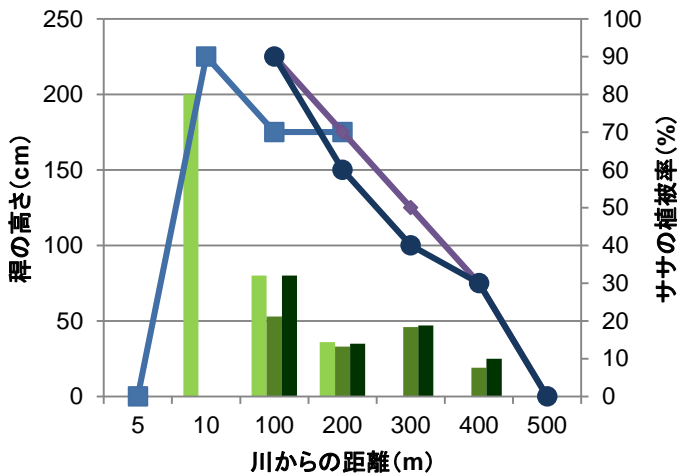


# 南東側ササ拡大域 植生調査結果

測線1

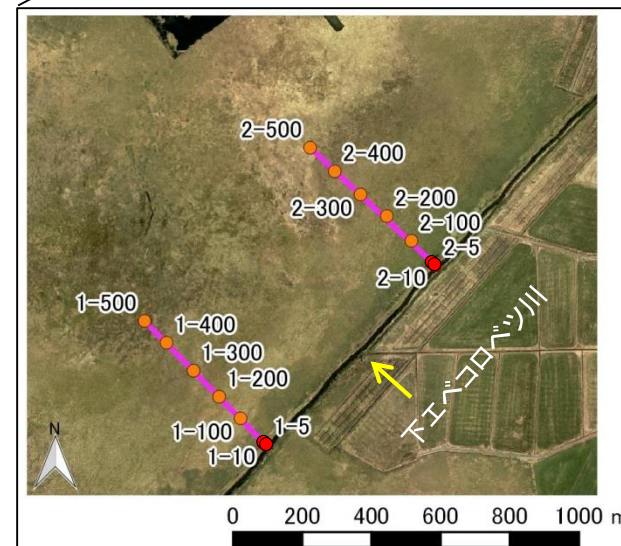


測線2



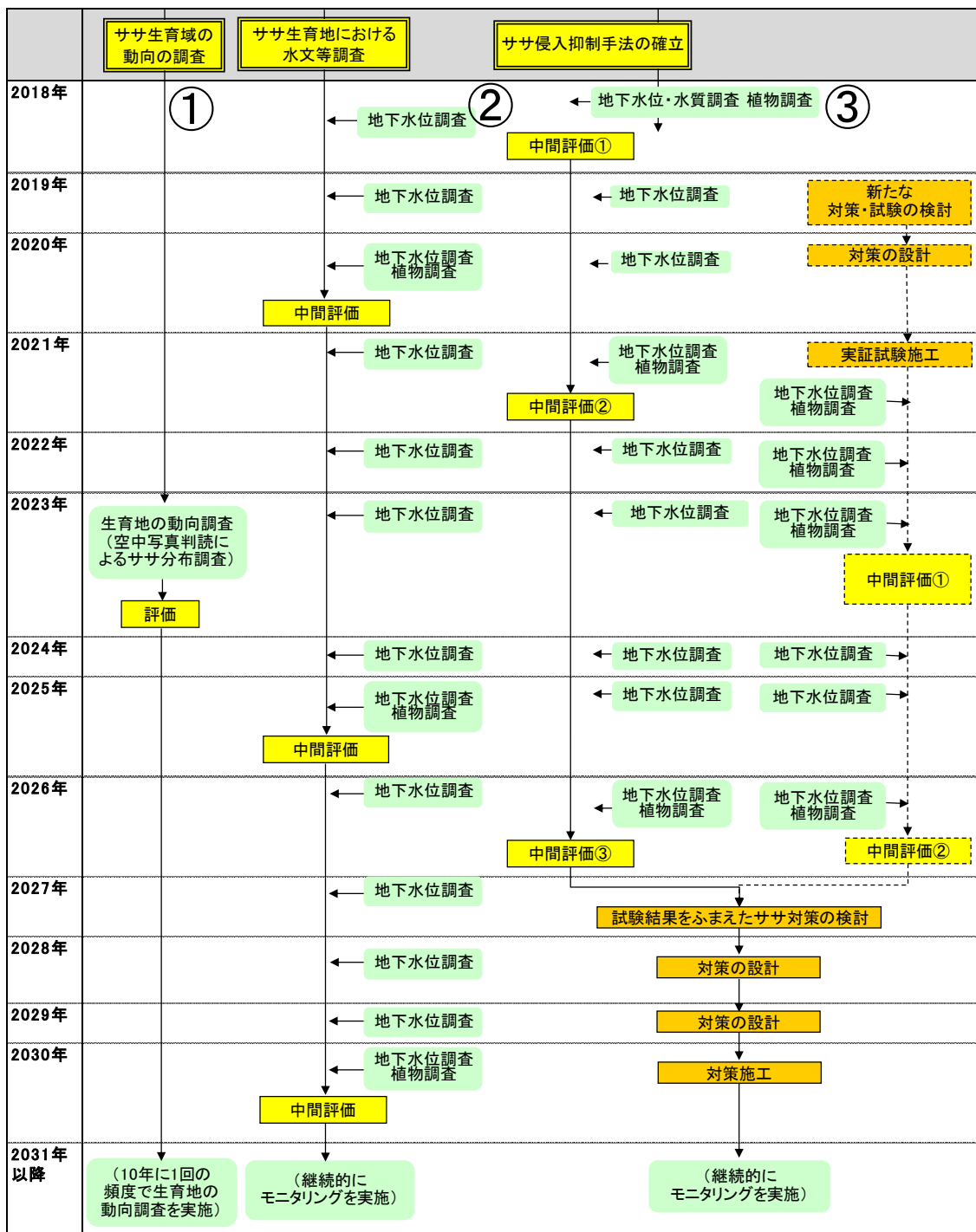
南東側ササ拡大域における川からの距離とササの植被率・高さの関係

- ササは下エベコロベツ川から400m強の範囲まで分布しており、500m離れた地点では確認されなかった。
- ササの植被率は下エベコロベツ川から10~100m範囲で特に高く、80%以上を占めていた。また、約300mの範囲まではササの植被率は40%以上であった。
- 今後も中長期的な視点で地下水位観測とともに、ササの拡大傾向についてモニタリング予定。



調査測線・地点の位置  
赤色の点は2015年度のみ調査を実施した地点

# 今後の計画(案)



①広域のササ生育動向を監視(10年に1回程度)

②南東側ササ拡大域は継続的にモニタリングを実施予定。

③剥ぎ取りや溝掘削による効果の検証に時間を要するとみられ、試験地の中長期的なモニタリングを計画。

より簡易な手法による新たなササ侵入抑制対策を検討し、試験施工を計画。